

と き 時空をこえて 貴重書の世界

大日本の児童の歌

Golden Chopsticks and Other Japanese Children's Songs

『大日本の児童の歌』は1904（明治37）年仙台で出版されたわらべ歌・唱歌集です。英・和文の歌詞とともに、多色刷りの美しい絵と楽譜が挿入されています。著者のモード・W・マデン（Maude Whitmore Madden 1867～1948）は仙台基督教会（現在の仙台川平教会）を設立したミルトン・B・マデンの夫人。本書の序文には、日本の遊び友達に歌を教わった自分の子どもが、「ママ、この歌は英語で何て言うの？」とたずねたことが日本の子どもの歌に興味を持つきっかけになったと記されており、あたたかな印象を与える挿絵と相まって子どもへの愛情を感じさせる絵本といえるでしょう。



晩年のマデン夫妻（写真提供：仙台川平教会）

モード・W・マデン『大日本の児童の歌』（武田万治郎刊、1904年）
左は「子守歌」、右は「雀」と題する歌



My Favorite Book わたしのこの一冊

『読むクラシック -音楽と私の風景-』

佐伯一麦著 集英社 2001年

美しき存在 仙台市 岩本 瑞子

たとえば、街の喫茶店で、あるいは地下鉄のホームで、またはテレビ番組の中で、ふと耳にした音楽の、題名は思い出せないけれど、その音楽にまつわる過去の情景が鮮やかに蘇ってくる、という経験は誰にでもあるのではないだろうか。大抵の場合その過去の思い出は懐かしく美しい。歳を重ねるにつれ記憶力が弱くなり、昨日の出来事さえ思い出すのは覚束ない私だが、音楽の力により遠い日の思い出に浸れるのは有り難い。

この本の作者は、まだ若くもちろん記憶力も充分で、しかもクラシック音楽に対する深い造詣をもとに、四十八曲を選びそれらの曲にまつわる思い出を、四十八篇の随筆にあげている。

日本篇と北欧篇に分けられ、それぞれに面白いが特に北欧篇は、珍しい動物や植物が描かれて興味ふかく、まだ見ぬ異国の風景を想像しながら読み進めるのは楽しい。また、さりげなく登場する言わば端役のような人物にも、作者は思いをこめている。たとえば、路面電車の中で「日本人ですね」と声をかけて来た見知らぬ女性が「ここで結婚したんだけど、もう離婚します」と打ち明けた話。『交響曲イタリア』のCDを買ったレコード店の主人が「イタリアはいいよ、女房が死ぬまえに一緒に旅したのが一番の思い出だよ」と言った話。行き付けの喫茶店の、男女の店員が婚約しているものと勘違いして、ばつの悪い思いをした話など。作家としての目が行き届いている。

音楽と文学、この全く違う分野の芸術が見事に融合し、美しい一冊に仕上がっている。

図書館からのお知らせ

館長講座「みちのくの歴史と文化を訪ねて」

平成17年度宮城県図書館館長講座「みちのくの歴史と文化を訪ねて」が9月からはじまります。第1回は「みちのくの歴史と文化の源流を訪ねて」。以下全6回にわたって伊達宗弘館長が講義します。第1回講座のお申込みは8月18日（木）から承ります。

●問い合わせ 企画協力班 022-377-8445

図書館員による「私の1冊」コーナーを新設

3階一般図書室の新着図書コーナー脇に「私の1冊」のコーナーを設けました。ここでは、図書館員がすすめる「この1冊」を展示するとともに関連資料を集め、借りていただくことができます。ぜひ一度ご覧ください。

表紙エッセイ／飯沢耕太郎さん



いいざわ・こうたろう 写真評論家。1954年宮城県生まれ。筑波大学大学院芸術学研究科博士課程修了。専攻は写真史・写真論。1990年、写真を見る人のための初めての専門誌「déjà-vu」を創刊し、1994年まで編集長を務める。1996年、『写真美術館へようこそ』（講談社）でサントリー学芸賞を受賞。近著に『写真評論家』（窓社 2003年）、『写真について話そう』（角川学芸出版 2004年）、『デジタルグラフィ』（中央公論新社 2004年）などがある。

「叡智の杜Web」をホームページに開設

「貴重書の修復・活用プロジェクト」の成果として、『坤輿万国全図』（国指定重要文化財）、『禽譜』、『御領分絵図』『仙台城下絵図』などの古絵地図類のデジタルデータをインターネット上で公開する「叡智の杜Web」を開設しました。超高精細画像でよみがえった先人の叡智の結晶をご覧ください。

●図書館ホームページ

<http://www.pref.miyagi.jp/library/> の「叡智の杜Web」のリンクからお入りください。

ことばのうみ

題字 作家・高田 宏氏

本誌タイトル『ことばのうみ』は、本館第8代館長・大槻文彦編著による日本最初の近代的国語辞典『言海（げんかい）』（1889～1891年刊行）に由来する。

第19号 2005年7月発行

編集・発行 宮城県図書館

〒981-3205 仙台市泉区紫山一丁目1番地1
TEL 022-377-8441(代表) FAX 022-377-8484
ホームページ <http://www.pref.miyagi.jp/library/>

デザイン/印刷 磯仙台共同印刷

KOTOBA
N O
U M I

宮城県図書館だより

MIYAGI PREFECTURAL LIBRARY No. 19 2005. 7

特集

図書館から始まる、叡智の杜づくり



みやぎ県民大学「きらめく叡智の杜を訪ねて ～仙台藩貴重書の世界～」

●とき：平成17年7月9日（土） ●会場：2階研修室

図書館という言葉の響きには、どこか甘酸っぱい懐かしさがある。小学校から中学校にかけて、僕は典型的な「図書館少年」だった。暇さえあれば学校の図書室に入り浸り、本を借り出しては休み時間も授業中も読んでいた。そんな子供だったのだ。二宮金次郎ではないが、登下校時も歩きながら読んでいて親や先生に呆れられるほどだった。

要するに、今考えると気が弱い割には自意識過剰で、本の世界に逃避していたのだろう。ギリシア神話、江戸川乱歩の『少年探偵団』やコナン・ドイルの『シャーロック・ホームズ』もの、少し大きくなったら吉川英治の『宮本武蔵』や『三国志』、『水滸伝』……。まったく脈絡はないが、そこには現実より千倍も魅力的な物語の世界が広がっていたのだ。

図書館はそんな魔法の世界への、魅力的な入り口だった。今でもかつての僕のような「図書館少年」たちが、「どこでもドア」の前にワクワクしながら立っているはずだ。

（いいざわ・こうたろう 写真評論家）

「図書館少年」たちへ

飯沢耕太郎